



SCB

ニュース&トピックス

No.2025-88

(2025.10.28)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

信用金庫統計担当：西 俊樹

03-5202-7672

s1000790@FacetoFace.ne.jp

信用金庫の預金動向（2025 年度上期）

— 預金金利の上昇に伴い、要求払預金から定期性預金への資金移動の兆しがみられる —

ポイント

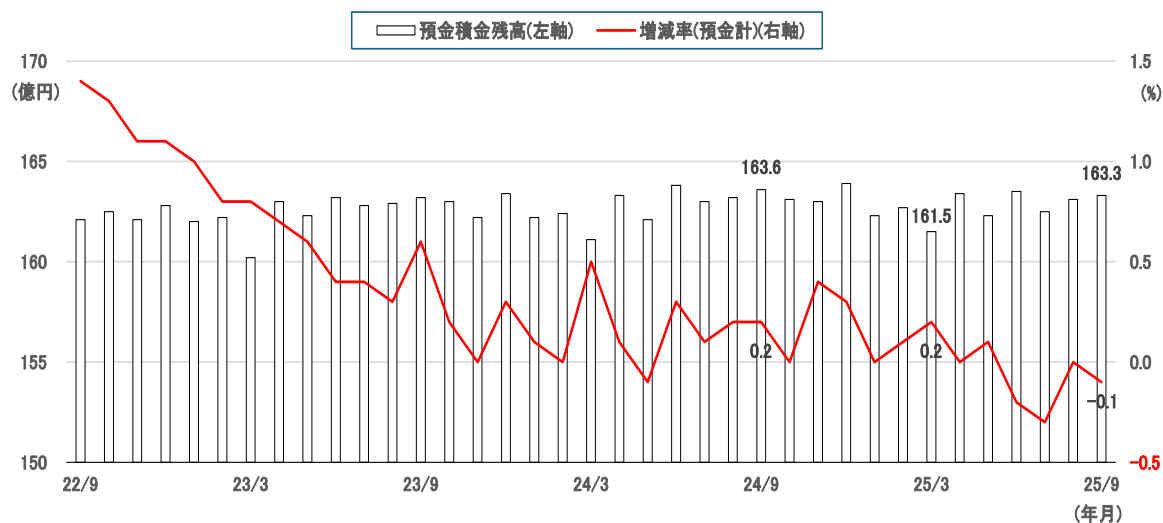
- 2025 年 9 月末の全国 254 金庫の預金残高は、前年同月比 0.3 兆円、0.1%減の 163.3 兆円となった。
- 預金種類別では、要求払預金は前年同月比 0.0 兆円、0.0%減の 88.0 兆円、定期性預金は同 0.2 兆円、0.2%減の 75.2 兆円となった。
- 預金属性別では、一般法人預金は前年同月比 0.4 兆円、1.3%増の 35.1 兆円、個人預金は同 0.1 兆円、0.1%減の 119.7 兆円となった。
- 預金の動きを地区別にみると、2025 年 4 月～7 月までは減少している地区が多くなっていましたが、8 月以降は増加している地区が増えつつある。
- 上期中の前年同月比増減率を信用金庫別にみると、4 月～9 月いずれもマイナスとなった信用金庫が占める割合が高くなっている。

1. 預金残高の動向

2025 年度上期の信用金庫の預金動向を確認する。2025 年 9 月末の全国 254 金庫の預金残高の合計は、前年同月比 0.3 兆円、0.1%減の 163.3 兆円となった（図表 1）。

信用金庫の預金残高が伸び悩んでいる一因として、長期化した低金利環境を背景に 2017 年 3 月から定期性預金が減少し続けていることが挙げられていた。しかしながら、日本銀行の追加利上げのあった 2024 年 7 月以降も増勢は鈍化傾向が続いている。

(図表 1) 預金残高の動向(前年同月比増減率)



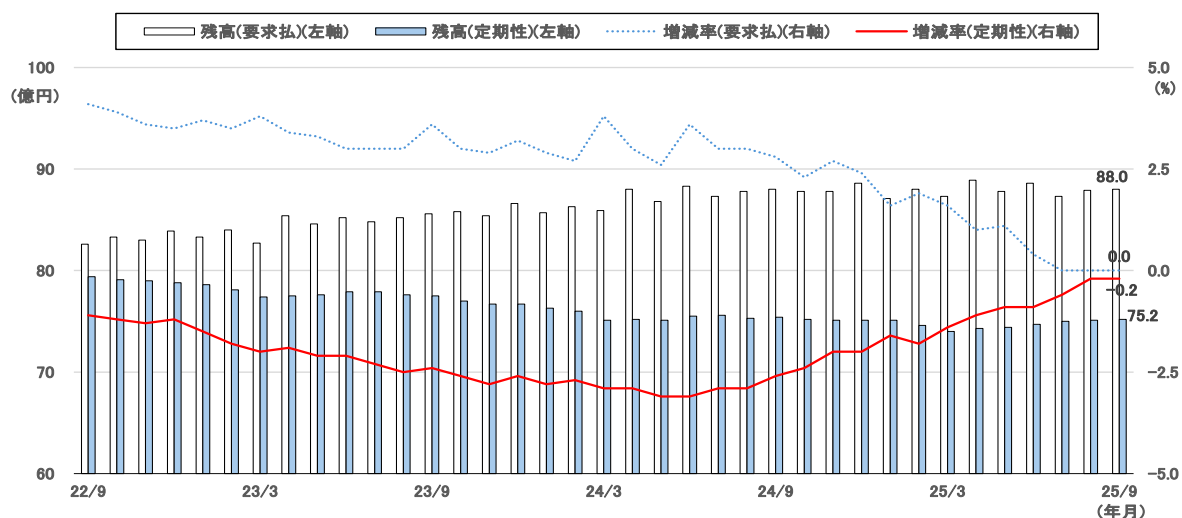
(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 預金種類別の動向

2025年9月末の要求払預金は前年同月比0.0兆円、0.0%減の88.0兆円、定期性預金は同0.2兆円、0.2%減の75.2兆円となった(図表2)。残高構成比は、要求払預金が53.9%、定期性預金が46.1%となった。2021年度中に要求払預金の構成比が定期性預金の構成比を逆転し、その差は拡大している。

定期性預金は前年同月比で2017年3月よりマイナスが続いているが、日本銀行の追加利上げのあった2024年7月以降はマイナス幅の縮小が続いており、2025年9月末は0.2%減にとどまった。定期性預金の残高動向は転換点を迎えており、今後の利上げペース次第では定期性預金が増加に転じる可能性がある。一方で、要求払預金は伸び悩んでおり、2025年7月以降は前年同月比ほぼ横ばいが続いている。

(図表2) 預金種類別の動向(前年同月比増減率)

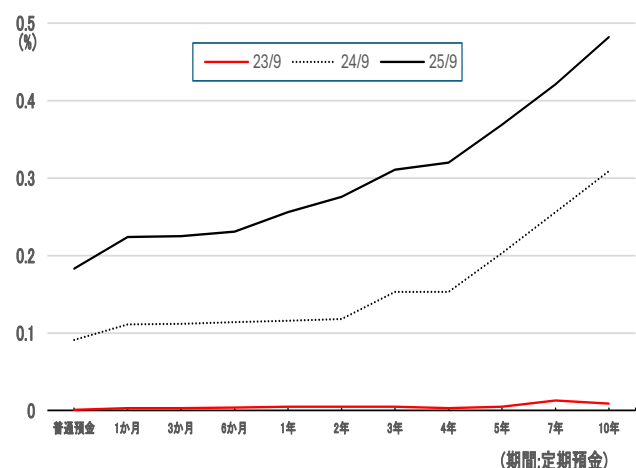


(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

図表3は、日本銀行が公表している「預金種類別店頭表示金利の平均年利率等¹⁾」にもとづき、普通預金および期間別の定期預金金利の動向を示したものである。

2023年9月時点では、預入期間の長い定期預金も含めて預金金利はほぼ0%であった。その後、マイナス金利政策解除後の2024年9月時点では、普通預金金利が0.1%程度となり、期間5年以上の定期預金で高い金利となった。さらに、追加利上げにより預金金利は一段と上昇し、直近の9月には普通預金が0.2%程度まで上昇している。

(図表3) 期間別の預金金利の推移



(備考) 日本銀行「預金種類別店頭表示金利の平均年利率等」より、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

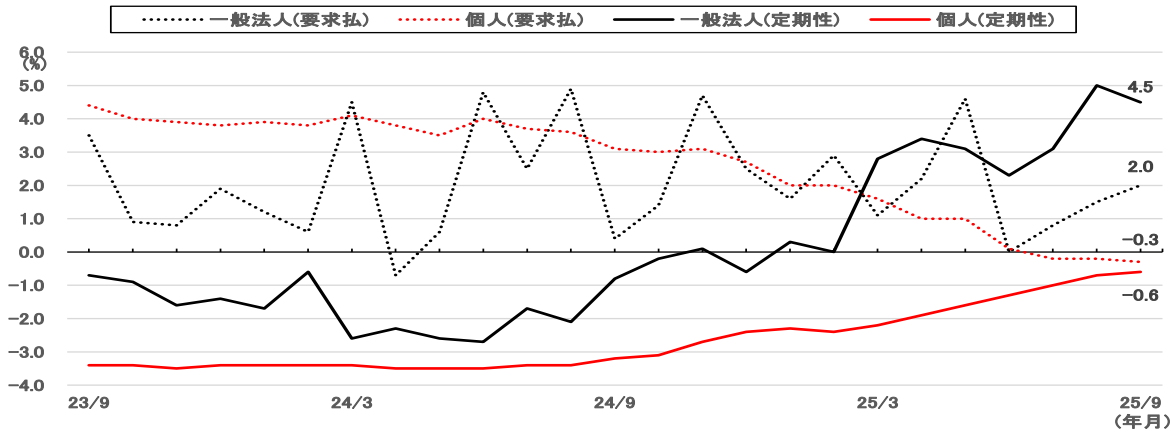
¹⁾ 日本銀行の取引先のうち、国内銀行(整理回収機構等を除く)、信用金庫および商工組合中央金庫を調査対象先とした毎月15日における各預金の年利率の単純平均値である。本稿では、定期預金の預入金額が3百万円未満のデータを使用している。

3. 預金属性別の動向

2025 年 9 月末の一般法人預金は前年同月比 0.4 兆円、1.3%増の 35.1 兆円、個人預金は同 0.1 兆円、0.1%減の 119.7 兆円となった。残高構成比は、個人預金が約 73%と大部分を占めており、次いで一般法人預金が約 21%となっている。

一般法人預金、個人預金を、種類別（要求払・定期性）に分けて前年同月比の推移を示す（図表 4）。日本銀行の追加利上げのあった 2024 年 7 月以降、定期性預金は、個人預金のマイナス幅が縮小するとともに、一般法人預金はプラス基調にある。

(図表4) 預金属性別の動向(前年同月比増減率)



(備考) 日本銀行「預金・現金・貸出金」より、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

4. 地区別預金の動向

地区別預金について、2025 年 4 月～9 月の前年同月比増減率の推移を確認する（図表 5）。預金計でみると、4 月～7 月までは減少している地区が多くなっていたが、8 月以降は増加している地区が増えつつある。

預金種類別でみると、要求払預金は 6 月までは高い伸びであった地区もみられたが、7 月以降は減少する地区が多くなっている。一方、定期性預金は各地区とも減少傾向が続いていたが、8 月以降は増加に転じた地区が増えつつある。

(図表5) 地区別預金の動向(前年同月比増減率)

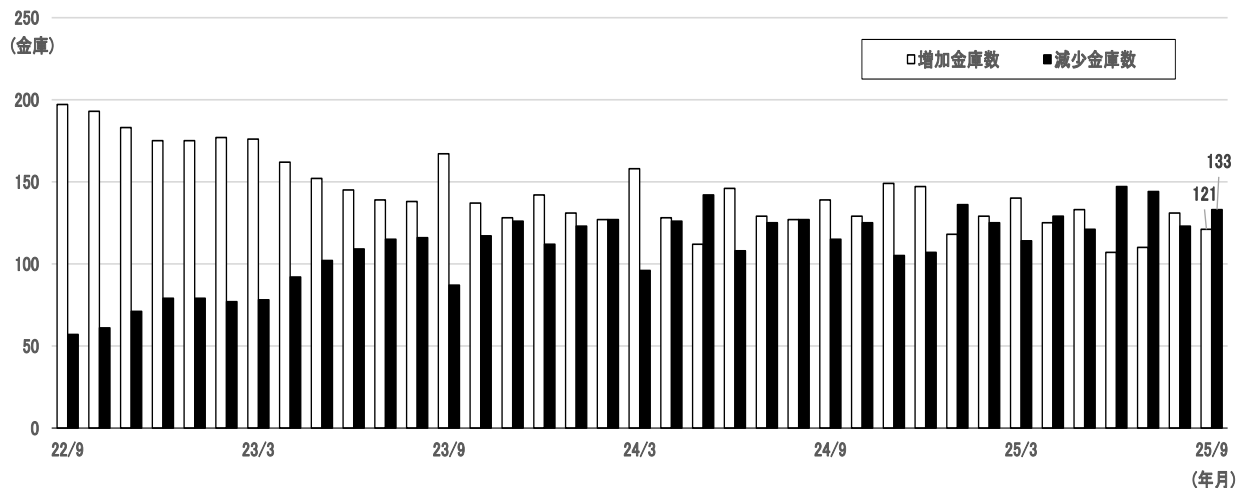
地区名	25/3			25/4			25/5			25/6			25/7			25/8			25/9		
	預金計	要求払	定期性	預金計	要求払	定期性	預金計	要求払	定期性	預金計	要求払	定期性	預金計	要求払	定期性	預金計	要求払	定期性	預金計	要求払	定期性
北海道	0.4	1.8	-1.3	0.4	1.8	-1.5	0.7	1.7	-0.7	0.2	1.0	-0.8	0.2	0.7	-0.3	0.7	1.0	0.4	0.2	0.2	0.2
東北	-0.2	0.6	-1.3	-0.5	0.2	-1.5	0.1	0.1	0.0	0.0	-0.6	0.8	0.0	-0.8	0.9	-0.0	-0.8	0.9	-0.3	-1.2	0.7
東京	-0.0	1.9	-2.4	-0.2	1.6	-2.5	-0.0	1.6	-2.0	-0.4	0.7	-1.8	-0.3	0.6	-1.4	0.1	0.6	-0.5	0.0	0.6	-0.5
関東	0.2	2.1	-2.4	0.0	1.3	-1.8	0.1	1.4	-1.8	-0.0	0.8	-1.2	-0.0	0.8	-1.3	0.2	1.0	-0.9	0.1	0.7	-0.8
北陸	0.5	3.5	-2.3	0.4	3.1	-2.2	0.3	2.5	-1.7	-0.3	1.3	-1.9	-0.2	0.8	-1.2	-0.0	0.6	-0.8	-0.5	0.5	-1.7
東海	0.7	1.5	-0.2	0.4	0.7	0.0	0.2	0.8	-0.3	-0.1	0.2	-0.5	-0.3	-0.3	-0.3	0.1	-0.0	0.3	0.2	-0.2	0.7
近畿	0.2	1.4	-0.7	0.1	0.6	-0.3	0.2	0.8	-0.3	-0.4	0.1	-0.9	-0.7	-0.6	-0.7	-0.9	-1.2	-0.6	-1.0	-0.8	-1.2
中国	-0.4	0.6	-2.0	-0.4	0.2	-1.5	-0.0	0.5	-0.9	-0.7	-0.5	-1.1	-0.3	-0.8	0.4	0.1	-0.3	0.8	-0.1	-0.6	0.6
四国	-0.3	1.9	-1.7	-0.1	1.4	-1.1	-0.1	1.2	-0.9	-0.1	0.2	-0.4	0.0	0.0	-0.0	0.0	-0.1	0.0	-0.1	-0.8	0.1
九州北部	-0.4	-0.7	-0.0	-0.0	-0.4	0.5	0.7	0.0	1.5	0.1	-1.4	2.1	0.2	-1.3	2.0	0.6	-1.2	2.9	0.7	-1.2	3.1
南九州	-0.9	1.4	-3.3	-0.9	0.8	-2.7	-0.4	0.9	-1.9	-0.8	-0.0	-1.5	-0.7	-0.5	-1.0	-0.4	-0.7	0.0	-0.0	-0.3	0.1
全国	0.2	1.6	-1.4	0.0	1.0	-1.1	0.1	1.1	-0.9	-0.2	0.4	-0.9	-0.3	0.0	-0.6	-0.0	0.0	-0.2	-0.1	-0.0	-0.2

(備考) 1. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
2. 沖縄地区は全国に含む

5. 信用金庫別の状況

2022年9月以降、預金が前年同月比で増加または減少している信用金庫数の推移を示す。2025年9月末には全254金庫のうち133金庫で減少となった（図表6）。預金残高の鈍化傾向が進むにつれて、2024年度以降は減少金庫数が増加傾向となっている。

（図表6）信用金庫別の預金増減状況

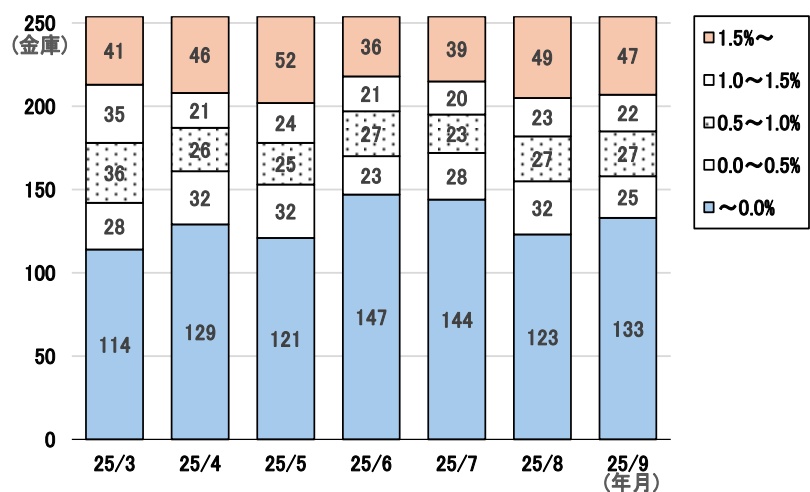


（備考）信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

次に、信用金庫別の前年同月比増減率の推移（2025年3月～9月）を示す（図表7）。

各月とも、図表の凡例5項目のうち0.0%以下（前年同月比マイナス）となった信用金庫数が最多となっている。また、2025年度上期中（4月～9月）、6か月連続で前年同月比プラスとなった信用金庫は73金庫となった。

（図表7）預金の前年同月比増減率の別にみた分布状況



（備考）信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2025年度上期の信用金庫の預金動向を振り返ると、預金金利の上昇に伴い、要求払預金に滞留していた資金が高金利の定期性預金に資金移動する兆しがみられた。また、信用金庫別にみると、預金が前年同月の水準を下回る信用金庫の数が増加傾向にある。

一方で、2025年度上期中に、前年同月比で毎月増加している信用金庫数が一定数みられた。増加している信用金庫の特徴としては、個人預金、一般法人預金問わず定期性預金の残高増加が大きく伸びている。高金利の特別定期預金が影響しているものと思われる。また、要求払預金の残高が増加している信用金庫では、一般法人預金が伸びていることが挙げられる。これらの信用金庫では、地域シェアが高く、地元企業の資金繰り等に応需す

ることを通じて、預金口座に資金が滞留していることが窺われる。

信用金庫の預金残高は、近年増勢が鈍化傾向にある。背景としては、職員減や渉外体制の見直し、インターネット専業銀行の台頭、政府が進める「貯蓄から投資へ」に向けた動きなど、様々な要因が挙げられる。

前述のとおり要求払預金残高が伸び悩む中、粘着性の高い預金の獲得がこれまで以上に重要となる。利上げによる金利上昇やデジタル化の進展といった環境変化を踏まえ、預金獲得活動は変わりつつある。金利水準だけに頼るのではなく、顧客層に応じた推進策、金利以外の付加価値の提供など、多角的なアプローチが求められるであろう。

以 上

※信用金庫業界の各種データは、信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページの「信用金庫統計」(<https://www.scbri.jp/publication/toukei/>) に掲載されています。併せて、ご活用ください。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。